

「何を云ふてんね」

「色の黒い汚い者です、女には月經と云ふもんがおますで」

「そんな事は誰でも知つてる」

「私は知らん、今教へて貰ふたところや」

「阿呆やな」

「阿呆々と云ふてもらひますまい、海女が生貝を取つて蒸し上つたやつを蕙の上へ並べて、後家で不可ず、獨身ひとりごで不可ん、仲のえゝ夫婦が其の蕙の上で一晩寝るのや」

「何を云ふてるね」

「ア、暑い、お茶を一杯汲んでんか、蕙の上で夫婦が一晩寝ん事には目出度う熨斗にはならん生貝ぢや、其のボン／＼をなぞ取らん、五十錢なら安い、一兩包め」

「ハ、ア成程、よう解つた、最前から熨斗の意味を云ふてたんか、これは感心、そうするとお前に尋ねんならん、熨斗は幾手もある」

「どんななんとお尋ねやす、チャンと此方には色々柄の變つたのが仕入れてやす」

「柄の變つた、何んぢや浴衣地でも買ひに來た様に云ふてる、それでは尋ねるが蕨熨斗は」

「おいでた、生貝の剥きかけだす、柿でも桃でも剥きかけは蕨の形になりますやろ」

「成程、感心」

「サア何んなお尋ね」

「襷熨斗は」

「生貝の紐でござす」

「こら感心、杖突熨斗は」

「生貝をひつくり返して見なはれ、裏は杖突きつぎの形になつてます。もう仕舞ひ」

「仕舞ひ、まだあるわい」

「まだおますか、こら附落や、どんな奴ですえ」

「片假名でチョイ／＼／＼／＼とした奴」

「片假名でチョイ／＼／＼／＼、そら何んでやす」

「何んぢや」

「その……何んでやすがな」

「何んぢやいな、先のはトン／＼拍子に返答が出來たのに、今度は返事が仕難いな」

「それは、その生貝を釜に入れて蒸す時に生貝が釜の中でブツ／＼と呟ぼやいてるね」

「ハ、ア、生貝が釜の中で呟ぼやくか」

「そら生貝やさかい呟ぼやきます。他の貝なら皆口を開きますわい」